

平成27年度第4回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会

- 1 開催日時・場所 平成28年2月2日（火）東北森林管理局 大会議室
- 2 出席者 【委員】黒瀧委員、高橋委員、林委員、網委員、小野寺代理、安部代理
- 3 検討結果
現時点では特に供給調整の必要はないが、国有林には、前回同様、価格及び需給動向を注視していただきたい。

4 主な意見

1) 国産材需給

- ① 製材用はカラマツの引き合いが強く、入札価格も上昇傾向にある。合板用については、スギの素材価格は引き下げられているが、カラマツは製材用と同じく上昇傾向にある。チップは製紙工場とバイオマス発電所の集荷が活発になり上昇傾向にある。
- ② 製材用は民材の出材量が増加。生産量が工場の受入量を上回っており、在庫が増えている。合板用は受け入れ制限が続いているがチップは順調に納入している。
- ③ 合板工場では、フロア台板、型枠合板の製造に力を入れており、トドマツ、カラマツの需要が旺盛。
- ④ 住宅着工戸数が減少傾向にある中で、一方では丸太の奪い合いがある。素材価格が上昇しても製品価格が上がるかという点と不透明感を感じる。
- ⑤ ホワイトウッドの集成柱が欠品しているらしく、スギKD柱が品薄になりつつあり、大手メーカーもホワイトウッドの需要を狙いスギ集成柱に注力している。

2) 他地域への輸送・輸出

- ① 中国経済の冷え込みにより、需用者と商社はより安い材料を探し回っている様子。中国の価格低迷により輸出用原木の販売は見合わせている。